

おまんぎつねと

おせんぎつね

銚田市

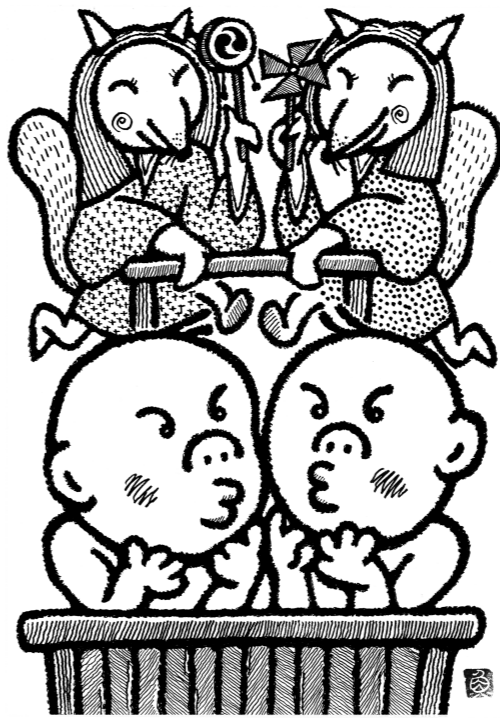
むかし、飯島村(今の銚田市飯島)に大塚おまんという狐が住んでいました。

ある日の事です。おまんが大蔵村のお稲荷さまのそばを通りかかると、どこからか赤ん坊の泣き声が聞こえてきました。よくみると双子の男の赤ん坊が捨てられていました。

赤ん坊を可哀想に思ったおまんは、青塚村(鹿嶋市青塚)に暮らす妹狐の青塚おせんに事情を話し、姉妹でそれぞれ一人ずつ育てることになりました。

それから何年か経ち、おまんとおせんはこの二人の将来を思い、人間に育ててもらおうと考えました。2匹はそれぞれ女に化け、飯島村と青塚村の役人の家に子育てを頼みました。

その後、役人に引き取られた男の子たちは、たくましい若者に成長し、漁師になりました。



漁師としての才能に恵まれた二人は、海の色を見て魚の群れを探す「沖合い」という重要な仕事を任せられるようになりました。二人が「沖合い」になつてからは、どういふわけか、イワシの豊漁続きで、浜には毎日、網いっぱい魚が引き上げられました。そんな時、どこからか浜にやって来ては、何も言わずに網の魚を持っていく女がいました。

漁師たちは狐の仕業に違いないと怪しがり、女を追い払いました。すると次の日からは姿を見せなくなりました。ところが、それからというもの、二人が漁に出てもイワシがまったく獲れません。二人はその責任を取られ、「沖合い」の仕事から外されてしまいました。

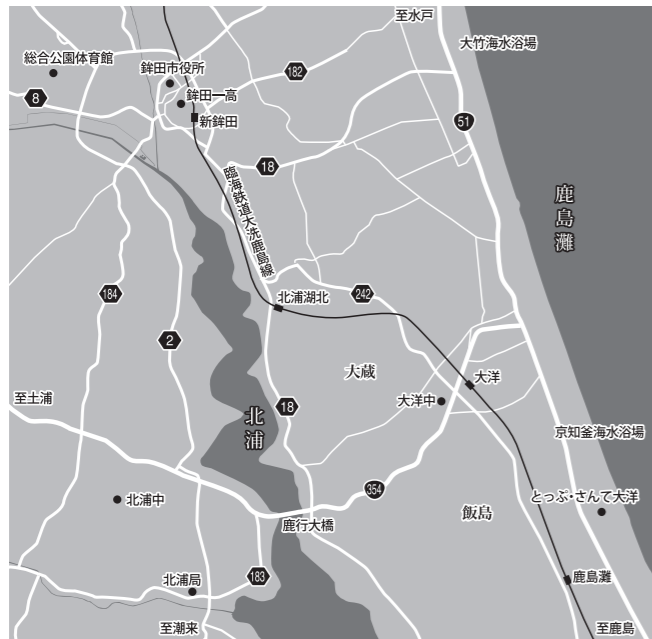
しばらくたつたある夜、飯島村と青塚村の役人の夢枕に年老いた翁が現れました。

「これまで豊漁だったのは、おまんとおせんという狐の姉妹のおかげだ。すべて元どおりにすれば、また豊漁になる。」と告げて消えたのです。

そこで、役人たちはお稲荷様にお参りし、また二人を「沖合い」の仕事に戻しました。すると、夢のお告げどおりにまた豊漁が続くようになりました。それ以来、漁師たちは、おまんとおせんに感謝の気持ちを込めてお稲荷様にイワシを供えるようになったということです。

〈参考文献〉いばらぎのむかし話(藤田稔著)

※掲載事項には諸説あります。



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <https://www.ibaraki-isuzu.co.jp>